

参考資料3 劇場・音楽堂の立地事例（その1）

駅前立地型

【石川県立音楽堂】

（金沢駅直結）

- 金沢駅前、新幹線線路に沿って立地。金沢駅東口と直結。駅前地下広場と建物地下にある交流ホールとは一体的な利用が可能となっている。

（石川、金沢の顔、広域集客として駅前立地選択）

- オーケストラアンサンブル金沢の本拠地として、コンサートホールの整備が計画化され、主に3つの候補地から選択された。

- A：金沢整備副都心
- B：金沢駅・直結地
- C：中心市街地（金沢城周辺）

○ 選択理由は5つ

- ①城を中心とした中心市街地と新副都心の中間点
- ②市域全体の回遊性を高める
- ③広域集客の施設でありアクセスが第一
- ④駅東口は和のイメージを象徴したい
(邦楽ホールを持つことは計画されていた)

- ⑤駅の賑わい、飲食・宿泊との連携を図る
- オーケストラアンサンブル金沢の世界的位置づけからもアクセスの良さが重視された。

- ④⑤については、駅周辺の主要ホテルと連携し、学会などのコンベンションの開催に積極的に対応。コンサートホール、邦楽ホール、交流ホールを有効に活用している。



主要施設：コンサートホール(1,560席・パイプオルガン有)、邦楽ホール(691席)、交流ホール(可変式400㎡程度、250席)、練習室7室、音楽資料室、プロムナードなど
専属楽団(アンサンブル金沢)関係諸室など

敷地面積： 約 6,905 ㎡
建築面積： 約 6,161 ㎡
延床面積： 約 27,805 ㎡



コンサートホール



邦楽ホール

資料：石川県、金沢市及び施設HP

中心市街地立地型

【札幌市民交流プラザ 札幌文化芸術劇場・札幌市文化芸術交流センター 今年10月開館】

（札幌の中心市街地の真ん中）

- 中央区北1条西1丁目、札幌市役所はす向かいに再開発による大型複合施設『さっぽろ創世スクエア』の一部として整備が進められている（本年10月開館）。

（都心まちづくりの2つの交流拠点の1つ）

- 異なる展開指針をもって整備を進めている。札幌市民交流プラザは②の中核的施設となる。
- ①札幌駅交流拠点：玄関口、起点の形成
- ②大通・創生交流拠点：質の高い、文化的なライフスタイルを支える機能・空間の形成

（創造都市さっぽろの推進拠点）

- 多様な文化芸術活動の中心拠点であるとともに、市民の仕事や暮らしに関する課題の解決を支援し、多くの人が交流する場となることを目標とする。
- にぎわいを創出し、「創造都市さっぽろ」の実現に大きく寄与していくことを目指す。

（3つの施設の複合）

- ①札幌文化芸術劇場（hitaru）
- ②札幌文化芸術交流センター（SCARTS）
(計画段階アーツセンターと呼称していた)
- ③札幌市図書・情報館
(従来と異なる図書館として情報館と称する)

※①の劇場は4～9階に配置されている。



■札幌創生スクエア

敷地面積： 約 11,656 ㎡
建築面積： 約 9,432 ㎡
延床面積： 約 131,892 ㎡
地下鉄大通駅と新たな地下道整備

■札幌市民交流プラザ

主要施設：札幌文化芸術劇場(2,302席、多面舞台)
クリエイティブスタジオ(448㎡)
札幌文化芸術交流センター(コート(多機能空間)、モール(物販・展示)、スタジオ(多機能))など
札幌市図書・情報館



札幌文化芸術劇場



クリエイティブスタジオ



文化芸術交流センター・コート



文化芸術交流センター・モール

資料：札幌市及び施設HP